

佳作
(中学部門)

新潟市立白南中学校 2年

おの
小野
あやね
絢音

どうせ作り直せない道なもの。

だんだんとよい道にしていけばいいのだ。

祖母

中二の夏、初めて予選を通ったピアノのコンクールで大きな失敗をした。今まで経験したことのないような恥ずかしさで自分のことが嫌いになった。

そのつらさを忘れてたくて漫画やゲームに入り浸っていると、祖母が黄ばんだ原稿用紙を見せてくれた。それは祖母が高校生の時の作文だった。

この言葉はその作文の最後に書かれていた。この作文を書いた頃、祖母は母親を亡くしたそうだ。殴り書きの文字から祖母の少しでも前を向こうとする力強さを感じた。そして過去のことから逃げている自分を幼く感じた。

直せない道も自分で作った道なのだ。その道を忘れずによりよい道を作っていける大人になりたいと思う。